







目標とする飼料用イネの草姿

写真は全て千葉県農林総合研究センターにおける生育の様子です

	アキヒカリ		夢あおば		
幼穂形成期	6月下旬頃		7月上旬頃		
	壤質土、粘質土	砂質土	壤質土、粘質土	砂質土	
	茎数 (本/m ²)	450 ~ 500	550 ~ 600	350 ~ 400	400 ~ 450
	草丈 (cm)	60	60	75	75
出穂期	7月下旬頃		8月上旬頃		
					
成熟期	9月上旬頃 ※出穂期後約40日		9月中旬頃 ※出穂期後約45日		
					
	穂数	24 ~ 27本/株	穂数	約18本/株 (疎植では21本/株)	
	一穂粒数	90 ~ 100粒	一穂粒数	約130粒 (疎植では140 ~ 150粒)	
	粒数	40,000 ~ 45,000粒/m ²	粒数	40,000 ~ 45,000粒/m ²	
	※栽植密度 55 ~ 60株/坪の場合です		※栽植密度 55 ~ 60株/坪の場合です		

御不明な点がございましたら、お近くの地域農業再生協議会、市町村農政担当課、県農業事務所企画振興課、又は下記までお問い合わせください。

千葉県農業再生協議会 (事務局: 千葉県農林水産部 生産振興課)
TEL: 043-223-2891 ホームページ: <http://www.chiba-suiden.jp/>

飼料用米取組者のみなさまへ

飼料用米多収栽培のポイント



国の支援策が変わります

国の産地交付金において、飼料用米・米粉用米の多収品種加算 (12,000円/10a) が見直され、飼料用米・米粉用米の複数年契約 (3年以上) 加算 (12,000円/10a) が新設されます。

10aあたりの収量に応じて助成額が増加する、戦略作物助成に変更はありません。

このため、飼料用米の取組にあたっては、3年以上の複数年契約に取り組むとともに、10aあたりの収量を増加させることが、経営にとって重要となります。



収量増加の実現に向けて

「アキヒカリ」及び「夢あおば」の2品種が、千葉県で栽培されている主な多収品種です。

両品種ともに、千葉県の栽培条件に適しており、「アキヒカリ」では 660 ~ 710kg/10a、「夢あおば」では 720 ~ 740kg/10a の収量が得られることが分かっています。

この2品種について、多収の特性が十分に発揮されるよう、ポイントを押さえた栽培管理をしっかりと実践することで、収量の増加が期待されます。

本資料を活用して、収量の増加を実現しましょう。

収量があがらない主な要因

- 1 ほ場の土づくりが不十分である
- 2 窒素施用量が不足している
- 3 移植時期が早い又は遅い
- 4 植付本数が少ない
- 5 病害虫の被害を受けている

多収に向けた栽培管理のポイント



多収を実現するには、主食用品種と同じ管理ではなく、多収品種に適した栽培管理を行うことが必要です。
ポイントとなる管理をしっかりと実施しましょう！

ほ場の土づくり(堆肥施用、耕耘等)

- イネがしっかりと根を張らせることができないと、多収品種の特性が発揮されません。
- 家畜ふん堆肥の利用や、丁寧な耕耘による稲わらの腐熟促進などによって、ほ場の土づくりをしっかりと行いましょう。(10aあたり施用量の目安) 牛ふん堆肥 1~2t、豚ふん堆肥 300~1,000kg、鶏ふん堆肥 250kg

多収品種に必要な量の施肥

- 主食用品種より多肥で栽培しないと、多収品種の特性が発揮されません。
- 生育期全般にわたって、窒素の肥効を持続させることが重要です。
- 10aあたりの窒素成分の量で、下表を目安に施肥しましょう。
- また、最高分け時期頃に葉色が薄い場合は、中間追肥を行いましょう。



品種名	アキヒカリ	夢あおば
基肥窒素	4kg/10a (粘質土の場合) 6kg/10a (壤質土の場合) 9kg/10a (砂質土の場合)	6~7kg/10a (粘質土の場合) 9kg/10a (壤質土の場合) 12kg/10a (砂質土の場合)
穂肥窒素	3kg/10a	3kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します
※豚ふん堆肥(300~1,000kg/10a)、鶏ふん堆肥(300kg/10a)を施用した場合、又は牛ふん堆肥(1~2t/10a)連用4年目以降の場合は、倒伏を防ぐために基肥窒素施用量を上記より3kg/10a程度削減します

適期(5月中旬)に移植する

- 「アキヒカリ」、「夢あおば」ともに耐冷性が弱いので、4月に移植すると冷害危険期と梅雨寒の時期が重なり障害型冷害が発生し減収しやすくなるため、4月の早期の移植は避け、5月中旬以降(安房・東京湾沿岸南部地域は5月上旬以降)に移植します。
- 一方、6月に移植すると成熟期までの期間が短くなるため収量が減少します。
- 幼穂形成期から出穂期に低温となった場合には、深水管理により保温に努めましょう。

適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

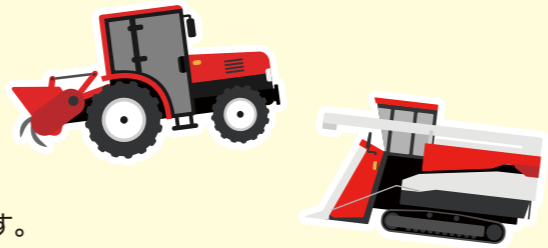
- 品種に適した栽植密度、植付本数で植え付けることで、多収品種の特性が発揮されます。

品種名	アキヒカリ	夢あおば
栽植密度	55株/坪	55株/坪
植付本数	37~48株/坪の疎植※ 4~6本/株	

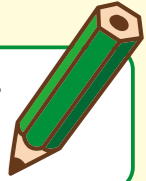
※穂数が確保しやすい窒素肥沃度が高い圃場では、疎植栽培も可能です。
しかし、植付本数を大幅に削減したり、穂肥を省略した場合には、収量が減少しますので、植付本数は4~6本/株とし、穂肥は、生育に応じて施用する必要があります。

病害虫の防除

- 種子消毒は必ず実施します。
- 紋枯病の常発田では、作付を避けるか、防除を実施します。
- 必要以上の多肥栽培は、いもち病の発生を助長するので避けます。
- 斑点米の原因となるカメムシは、主食用品種と同じように防除します。



多収に向けた栽培管理のチェックリスト



自分の栽培管理を記入し、左のページの指標値と照らし合わせて、多収品種に適した管理が実施できているか確認してみましょう。
(※コピーして、品種ごと、ほ場ごと、年度ごと等で記入・記録しましょう)

令和 ____ 年度作 品種名: _____

ほ場の土づくりの実施

- 堆肥種類: _____ ●施用量: _____
- 施用時期: _____
- 耕耘: ほ場あたり ____ 回 (実施時期 ____ 月、____ 月、____ 月)

多収品種に必要な量の施肥

- ほ場の土性: 粘質土 ・ 壤質土 ・ 砂質土
- 基肥窒素量: _____ kg/10a
※肥料銘柄 _____ を10aあたり _____ 袋
- 幼穂形成期: _____ 月 _____ 日頃
- 穂肥実施日: _____ 月 _____ 日
- 穂肥窒素量: _____ kg/10a
※肥料銘柄 _____ を10aあたり _____ 袋

5月中旬をピークとした移植の実施

- 移植開始時期: _____ 月 _____ 日 ●移植のピーク: _____ 月 _____ 日頃
- 移植終了時期: _____ 月 _____ 日 ●深水管理の実施: _____ 月 _____ 日~ _____ 月

品種ごとの適正量の植え付け

- 1箱あたり播種量: _____ g ●栽植密度: _____ 株/坪
- 10aあたり使用苗箱数: _____ 箱 ●植付本数: _____ 本/株

病害虫の防除の実施

- 種子消毒の実施: 有 ・ 無
- いもち病 発生: 有 ・ 無 防除: 有 ・ 無 被害程度: 小 ・ 中 ・ 大
- 紋枯病 発生: 有 ・ 無 防除: 有 ・ 無 被害程度: 小 ・ 中 ・ 大
- カメムシ 発生: 有 ・ 無 防除: 有 ・ 無 被害程度: 小 ・ 中 ・ 大